

## 第34回Kozoom28 テーマ「人工知能(AI)の技術開発」に思う

清水健二

今年2月に「春を呼ぶ節分祭」、3月に「ひょうたんカプセルの思い出」と題して、Kozoom28へ投稿した。日本の伝統的な節分行事や畑仕事を通して老人達と幼稚園児たちとのふれ合いについて書いた。

平和な日常生活のありがたさが、新型コロナ感染拡大で、丸三年不自由な生活が続いたことから日常のあり方が大きく変化した。人と人の対面交流や接触が制限された影響で、四季を通じて行われていた伝統行事が中止された。健康づくりのために畑仕事を希望する高齢者は減少し廃園になったり、幼稚園児たちとの交流もなくなってしまった。人が集まる各種文化活動も下火になって冬眠状態に陥ったことなどを紹介した。

しかしそれをカバーする手段として通信技術が急速に進展し、経済活動における仕事の仕方が変革し、職場への出勤を制限されたことから、ITによるリモート対話と自宅での仕事へ転換する方策が採られた。人との交流はパソコンやスマートフォンが通信媒体として不可欠な道具になっていった。コロナ禍以前からすでにデジタル化は利便性や省力化に有効で採り入れられていたが、この3年間の進展は急激で、後戻りはできないばかりか一層拡大することになった。

もう数年も前に、郊外でバスに乗った折、親子が夢中でスマホを操作している姿を見てつい、社会派カメラマンのように私はカメラを向けて撮ったことを思い出した。親子で会話を楽しめば良いのにな、と思ったが今ではこんな風景は珍しくなくなった。電車に乗れば、年寄は眠っているが、ほとんど乗客はスマホに夢中である。まさに画像中毒人間ばかりである。また世界中でSNSを使用して誰もが自由に発信できるようになり、他人を中傷したり、人の尻馬に乗って雑言罵りの言葉を発して愉快がってる人の多いのに驚きと、節操の無い世の中を嘆きたくなる事件が続いている。



スマホに夢中の親子

年少の子供たちまで難なくスマホを駆使していて、来年度には小中学校では生徒1人に1台の

端末機を整備し 教科に利用するという。まさにデジタル時代に入って、不器用な高齢者は取り残される時代になってしまった。

どんどん利便性を高め、経済効果の上がる商品化狙って、世界の企業は競っているが、それは人間社会に貢献することなのかと、私は疑問を抱いている。昨今人工知能(AI)の開発と商品化の是非が盛んに論じられ始めている。私のような凡人にはとても及ばない量の知識を包含したAIロボットが問題解決に対応してくれ、その答えを享受できるという。日常生活の中で、昔は手洗いしていた作業を洗濯機がやってくれたり、畑を耕すのに牛の力を耕運機に代ってやる程度の機械化は歓迎したいが、機械が何でもやってくれる世の中は、決して人にとって良いことでは無いと私は思っている。困った時に考え工夫して対応する知恵を出すのが人間本来の姿だし、そうして人は成長していくものだとは確信しているからである。

2001年代に人間の遺伝子を操作して、クローン人間誕生の技術開発が世界的な話題になったが、さすがに神の領域を侵害する人間の奢りは許されず実現しなかった。今回のAIもこれに似た展開になりそうである。先だって、亡き人の容姿のみならず、発生する声色やその人の持っていた知識をインプットしたロボットを制作し、亡き人と対話し意見を聞いたら良いのではないかと発言していた人がいて私は呆れてしまった。故人は素晴らしい人だったかもしれないが、亡き人の尊厳をどう認識しているのかと言いたかった。

人は自然と共生し体力と知力を使って生きていくものだと思う。「人間は考える葦である」AIなる無機質な答えを頼りにしては、人は思考力をなくし、人間喪失につながると考えるからである。卒業論文をAIに書かせ、同じ構成の内容が複数提出されたという先生の話聞いて唖然としたものである。

先日、現役時代に同じ職場にいた後輩K氏からメールが送られてきて驚いたことがある。私の書いた「春を呼ぶ節分祭」の投稿文を入手して、Chat GPTに文書力を質問したら、こんな回答があったと伝えてきた。以下にK氏の文面を紹介すると、

「ChatGPT」でのやり取り

「質問」 貴方様の文の一部を打ち込み、この文体について聞きました

～～正午に始まってもっぱら掛け声も「福は内」である。私も出かけてどっさり福豆を頂戴して来た。夜はこれも近くの八尾天満宮に出かけて節分祭を楽しんできた。昔からの由緒ある神宮で、隣合わせに戎っさんの本殿があるので、祭事も盛り沢山で境内は大賑わいになる。まず神事が終わると櫓から豆が撒かれる。飛んでくる福豆袋の取り合い合戦が始まる。やがて松明を持って暴れまわる赤鬼、青鬼、天狗の登場に場内は騒然となる。～～

この文体の評価はどうでしょうか。

「解答」

この文体は非常に明快で、読み手が想像しやすいように描写されています。文章の流れもスムーズで、読みやすく感じます。また、日本の伝統行事である節分祭に関する詳細な情報が含まれているため、文化的な知識も深めることができます。総じて、この文体は良く書かれたものと言えます

「質問」貴方様の末尾の一部を打ち込み、その内容こついで聞きました

～～身の周りにいた親しい人の他界を知らされる度に無常の想いを抱く。しかし輪廻の世界を信じ 明るい春を呼ぶ気持ちを持ち続けたいと思っているがどうだろうか。～～

「解答」

親しい人を亡くすと、人は自然に無常の思いを抱くものです。しかし、輪廻の世界を信じているのであれば、この世界での別れは永遠ではなく、再会があると信じることができます。

また、明るい春を呼ぶ気持ちを持ち続けることは、亡くなった方々への最高の追悼の仕方もかもしれません。彼らは私たちが今まで共に過ごした時間を大切に、喜んでいてくれることでしょう。

つらい別れや悲しみを乗り越えるのは決して簡単ではありませんが、信念を持ち続け、愛

する人たちと共に生き続けることが大切です。あなたが強く、愛された方々もあなたを支えていることを忘れずに、前を向いて生きていってください。

K氏はChat GPTに興味を持ち私の投稿文をネタに試したという。私はGPTがこんな答えを出すのかと初めて知った。彼は私を喜ばせるつもりだったのか、私も国語の先生に褒められたような気分になった。しかし考えてみるとAIという擬人は蓄積されたデータに間違いがあったり、恣意的にフェイクな情報をインプットすると、全く違った答えを出してくる可能性があり、これは悪質な行為に繋がりがねないし、政治利用へ働くと社会を混乱させる危険性を強く抱くことになった。最近GPTに関する新聞記事が連日掲載され、巨大IT企業へデータと権限の集中が懸念され、当然個人情報が無断に使用されることから開発を中断する国もでてきた。私は、自然科学を学び、企業の中では技術開発部門にも所属してきた。長い現役時代を通して、科学者は様々な分野で研究開発に取り組むのは是とするが技術開発や商品化する段階に入れば、倫理や道德の観点から、民主的なチェック機関を設け統制する政策の必要性を強く持っている。

人間は人々とのスキンシップな交流無しでは生きていけない。情感の無いデジタル生活はあくまで事務的な効率優先の生活になってしまう。人は知情意を持った動物であることをベースに、アナ



そろばん教室の児童たち

ログ的な生活をもっと拡大した生き方を追求していかなければ、人間が人間を消滅させてしまいそうに思う。私たちが生きてきた中で、アナログ的な生き方は決して古びてしまっているとは思っていない。前述したが、小学校の授業にデジタル教科を採用するのも結構だが、デジタル計算機よりそろばんの使い方も教えてもらいたい。そろばんは素晴らしい道具だと私は思っている。数字を玉で認識し、指を使い集中力を

高め、上手になれば暗算ができるようになる。三角定規やコンパスを使って作図する楽しみ方もある。まさに数え切れないほどアナログ生活が人を育ててきているのである。

私の住む地域に古い大寺の八尾御坊(大信寺)があって、私は毎朝ウォーキングしながら7時の時報の鐘を聞いてきた。それが今年になって聞けなくなった。今どき僧侶が



時報の鐘を撞く

わざわざ鐘を撞く時代じゃ無いということになったのだろう。しかしリズムに乗った鐘の音は実に心地よく響いて、朝の空気を胸いっぱい吸ってきたので寂しい思いをしている。

コロナで悩まされた3年間、デジタル化社会に急変してきているが、アナログ的生活も戻りつつあることでほっとしている。今年の桜は早く開花し長く咲きつづけて花見も賑わった。



花見を楽しむ人達



家族で花見

近くの公園も家族連れや仲間同士の宴もみられるようになった。私は大戦中、疎開して毎日自然の息吹を感じながら土と共に育ってきた、子供の頃ははるかに生活は不自由だったし効率的でなかったが、無駄な行為も心を慰めて来てくれたし、感受性も育てられたと思っている。

俳人 種田山頭火の句に「雨ふる ふるさとは はだしで歩く」がある。サラリーマンを卒業してから20余年になり、美術の世界に興味を抱いて過ごしてきたが、この句を思い出しながら人間の原点を忘れないで作品づくりに精を出している。

AIは論理的な思考が得意だが、芸術の分野に於ける感性の領域についてはどんな反応を示すのか、これからじっくり考えてみたいと思っている昨今である。

令和5年4月 記